

現状報告

■ コロナウィルス感染症拡大に伴う子どもたちを取り巻く現状

- ① 災害が広範囲にわたり起き続けている状況と同じと捉えている。

<コロナ緊急期の特徴>

閉鎖的な環境で起きていることがあがってきづらい。

(日常の場で拾っていた事例がひろえなくなる・・・学校、居場所、施設、のきなみ中止)

▶ 他国の啓発の事例は

- ② 元の生活への復元というカタチではなく、新しいスタイルやシステムが構築されていく。

▶ ネット環境がない世帯へのリーチが難しい。

市民の目・おたがいさまネットワークが重要。

→ 地域の市民組織 (自治会、民生委員会、町内会、などのCSO) との連携も

現状の課題

■ 早期の情報公開 (感染に係る) と 差別的な扱いへの懸念とのバランス

▶ 実際の事例から

■ 強みを持ち寄りしくみづくり

▶ ニーズを求めるばかりでなく「おたがいさま = 相互」

・“このセクターは提供する側だ”などの思い込み

・市民、行政、教育機関、企業の各セクター 知恵の出し合い・持ち味の出し合い

緊急期をきっかけに、有事に備えた平時からの地域システムづくり

こども特急便「食と知恵と生きる力を届けるプロジェクト」

コロナウイルス感染症拡大に伴って、いまだかつてないことが、子どもたちを取り巻く環境に起こっています。
その最中の子どもたちの現状を聴きたい、一緒に考えたい、SOSを拾いたい。
そんな思いで、子どもの声・子育て世帯も声を聴き、応えます。

※2020年5月7日より始動

地域のみなさんへ

身近に困難を抱える子ども・世帯などありましたら、コーディネート機関（特定非営利活動法人こどもNPO中川ブロック）までご連絡ください。

状況にあわせた行動と一緒に考え、「食」「物資」「相談つなげ先」「メッセージ」などをお届けする手配も行います。

※地域に出向き子どもに直接リーチする場も設けています。（月：荒子学区、水：八幡学区、金：はとり学区 等）

これまでのケース

- ◆関係機関、地域の方からのつながりで・・・
産後ケア世帯、シングルマザー世帯、シングルファザー世帯
→つなげ先の方からのお届けもの、訪問しての傾聴など
- ◆地域に出向いて直接リーチして・・・
中学生、子どもが多い世帯 等々
→傾聴・応答、必要な世帯・希望者にはお届けものを



連絡・問合せ先

特定非営利活動法人こどもNPO（中川ブロック）

▶特定非営利活動法人こどもNPO

FAX : 052-848-7390（特定非営利活動法人こどもNPO事務局）

メール : event@kodomo-npo.or.jp（特定非営利活動法人こどもNPO事務局）

中川地区連携連絡窓口

▶名古屋市中川児童館

TEL : 052-352-3564（中川地区PJ事業連携先 中川児童館/根岸）

連携：中川児童館、地域つながりネットワーク「ぐるり」、子育て支援拠点ゆるぽか、バトンタッチ、さっちゃんち、

おもちゃのひろば、なかがわ子ども食堂、中川区社会福祉協議会、はるたのまち保育園、中川図書館、

なごや子ども応援委員会中川ブロック、中川区役所民生子ども課 他

協力：名古屋市教育委員会 鶴舞中央図書館、あいち子ども食堂ネットワーク、名古屋名東ロータリークラブRCC、
千音寺荘つねかわ駄菓子店、中川警察署

財源：特定非営利活動法人こどもNPO 寄付基金：緊急期の子どもの最善の利益の保証事業
緊急子ども支援基金申請予定

取り組みの3本柱

- ①閉鎖的な環境において困難な状況にある子どもの現状を地域と連携して見つけ、課題解決に向けて動き、虐待防止につなげる。
- ②子どもの気持ち、子どもから届いた困り事の現状に寄り添い、Q & Aのやりとりをしていく。
- ③生きることの生命線である食事面をサポートする。

ルート

ルートA：協力機関や地域から情報を拾い、呼応する。

ルートB：「こども特急便」出先でのおたよりノートや対話などによる子どもとの直接のやりとり。

ルートC：インターネットを活用した支援・調査を行い、呼応する。

食・物資・情報の届け方、呼応のしかた

・受益者である子ども・子育て世代にとって、最良なかたち、ルートとなるようケースごとに考慮。つないでいただいた方、つないでいただいた協力機関とコーディネーターで検討。

・閉鎖的な家庭環境だと、保護者が阻み、子どもにつながらないケースが多く見受けられる。「こども特急便」といった子どもが自分の足で行ける場（地域近くの公園や路地など）をつくり、子どもに直接リーチできるよう補完する。

